



地元の木、
地元の業者、そして
小さな頃からお世話に
なってきた大工さんに
建ててもらった、
板倉の家…。

2階の広間と階段室の間は、2枚の引込み障子で区切るようにした。階段室も広間に取り込み、空間を広く見せている。また広間の吹抜けと合わせて、子供達のいる3階とのつながりを強く感じる事が出来る。

Sさんのお宅が完成して、早2年半が過ぎました。当時地元の工務店に勤めていたSさんですが、家業の牛乳屋を継ぎ、ご両親と同居するの為に3階建ての板倉の家を建てました。Sさんの敷地は、間口3間で南北に細長い敷地です。その敷地に2世帯の計画と合せて、大きな冷蔵庫を置くスペースと、配達に使うバイクを置く場所が必要になりました。また、北面は国道に面しているという事も有り交通量も多く、安全、騒音、排気ガスなどの配慮もしながら計画をしていきました。最終的に述べ床面積60坪の3階建ての計画になりましたが、この家に使う木材の量は相当なもので、今回の計画はこの木材の調達から始めなければいけません。当時これだけの量の材料や板材を集めるのは大変な事でしたが、幸いにも、Sさんが工務店に勤めていた時にはじめた木の家の勉強会に、4社の製材屋さんが参加しており、そのすべての製材屋さんに木材の調達を分担してもらった事で、その量・質を確保する事ができました。製材屋さんの他に、Sさんが小さな頃から親しくしていた大工さんの頑張りも大きく、見事に3階建ての板倉の家は完成しました。現在も度々お宅にお邪魔し、家の様子を伺っていますが、子供達の「のびのび」した暮らしぶりや、木の家ならではの心地良さが気に入っていると話してくれます。現在、家の中は全て子供達の遊び場となり、傷や汚れも有るといいますが、それらが家族の中では何一つ問題ではなく、かえって味わいのある家になり、楽しんで暮らしていると喜んでいただいています。仲良し家族の木の家の様子！これからもちょくちょくお邪魔します。今後とも宜しくお願いしますね！ (文/コロコロ 山崎 健治)

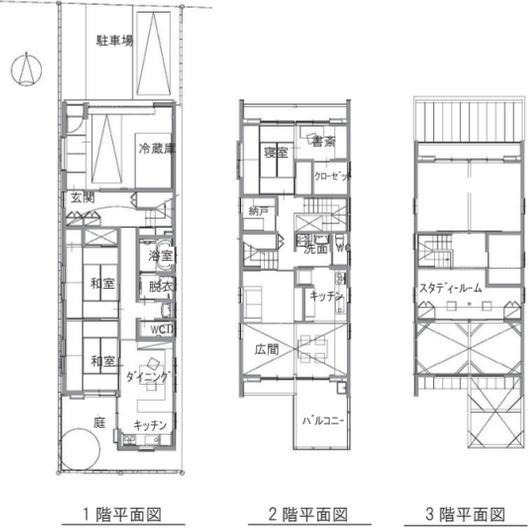
DATA

- 家族構成 夫婦、子供2人、親夫婦
- 敷地面積 142.82㎡、建築面積 85.53㎡、延床面積 198.22㎡
- 構法 木造落し込み板壁構法(板倉構法)
- 竣工 平成17年6月
- ・外部仕上げ
 - 屋根/ガルバリウムカラー鋼板 縦ハゼ葺き
 - 外壁/ガルバリウムカラー鋼板 角波貼、一部リシン吹付け
 - 外部建具/アルミサッシ(システム)
- ・内部仕上げ
 - 天井/杉厚板現し
 - 内壁/杉落し板現し厚30、一部漆喰塗り
 - 床/杉厚板 厚40
 - 内部建具/地杉オリジナル建具
- ・設備
 - キッチン/システムキッチン(タカラ)、洗面/既製品(タカラ)、浴室/既製品(タカラ)
 - 照明器具/マックスレイ、松下、ヤマキワ
- ・設計者: 山崎 健治



1/ 仲良し姉弟が気持ち良さそうに木の床をゴロゴロしていました。
2/ こんな楽しみ方ありませんか？
3/ 床板の隙間に整然と差し込まれたウルトラマンカードの、列、列…。

広々と…心地よく暮らす知恵。



1/ 玄関の床はゆるやかなアールになっている為、土間との境界が曖昧に感じ、玄関を広くみせている。
2/ コンパクトに使いやすく配置された、1階のダイニングキッチン。
3/ 6帖のバルコニーを設けることで、広間に奥行きが出て広々感じられる。
4/ いづれは真ん中で仕切って使用する計画を立てている子供部屋。
5/ 吹抜けの広間とつながり、不思議な浮遊感を感じられる、3階のスタディールーム。
6/ 道路側から見た外観。橋を隠し、すっきりと見せている。

いつもSさんのお宅に伺うと、どこからか笑い声が聞こえてくるような気がする。元気でカワイイ2人の子供さんが外出してのお留守でも、そう思うのはなぜだろう。

Sさんの家は2世帯設計になっていて、1階はおじいちゃんおばあちゃんの部屋になっている。庭からの暖かな光が入る室内は、綺麗に使われていて、床にもキズが少ない。一方、元気な2人の子供さんとご夫婦の暮らし2階3階は、床や柱にも大小のキズがちょっと目立っていた。幅の広い床板同士の間の隙間も、ある。「ここにゴミとか入りますよね？」と奥様に聞いてみると、「そうですね、でもまあ…あまり気にしていません。意外な使い方がありますし…」と聞いて、その隙間に子供さんが玩具のカードを差し込んで遊びにしていることを教えてくれた。そして床の手入れも、難しいことはしない代わりに小まめに掃除し、重曹や石鹸・クエン酸を使って優しく洗っていると教えてくれた(使い方は特集をご覧くださいね)。家に対する考えの大きささと手入れの様子に感心していると、吹き抜けの上から視線を感じる。仰き見ると、さっと2人の子供さんが姿を引っ込めた。その様子を誘われるように吹き抜け上部の3階に上っていくと、子供さんが覗いていた開口部からは、用宗の海が見えた。「ウチの子はサルなんです」といってご主人が声をかけると、娘さんがちょっと照れくさそうにしながら…なんと木の柱に登り始めた。子供の肌は湿り気がある柱に、滑り止めになるのだろうか。上手にするすると登っていく。…こんな意外な木の家の使い方(?)もあるのだから…。

「木の家に住んで分かったことはありますか？」とご主人に聞くと、「僕らは分からないんですけど、この家に来る人は木のいい匂いが好きといます。息子が友達の家に行くと、時々忘れてくるんです。友達も同じ玩具を持っていて、どっちがどっちの玩具なのか普通分からなくなると思うんですが、その友達は玩具の匂いを嗅いだらどっちが息子の玩具なのか分かると思います。玩具に、木の匂いが染み付いているみたいなんです」と答えてくれた。へえ！建築してから2年半経っても、木の匂いってするんだ…。玩具に染み付いているってことは、人にも木の香りは移っているんだらう。木の香りは不安や緊張などに有効に働き、ストレスを軽減し、心身によい影響を与えていることが実証されている。木の香りが当たり前になっていて気がつかなくても、木はこのご家族を心地よく守っているのだから。

この家の木は、この家の住人の優しい手入れによって、木の良さを失わずに心地よい香りを出している。そしてご家族は、この家の香りと心地よい暮らしに包まれて、元気に毎日を暮らしてゆく。木の家と住人との素敵な関係…どこからか笑い声が聞こえてくるように思っているのは、人も家も健やかに暮らしているからなのだろう。

(文)コロコロ まめこ

